

作家訪問

山田悠介先生

Q 1 ホラー作家になろうと思ったきっかけは何ですか？

A 作家を始めた時、流行していたのがホラーで、ウケるものを書こうと思い、ホラーを書き始めました。

Q 2 小説のネタに行き詰った時の気分転換の方法は何ですか？

A 行き詰ったことはないですが、一人でスパに行ったり、子供と遊んだりして気分転換をしています。

Q 3 作家になって得たものは何ですか？

A お金ですね。あとは、出版社の待遇が良くなり、海外にも連れて行ってもらったことがあります。

Q 4 一冊の本を執筆するのにどのくらいの時間がかかりますか？

A 2 か月かからないくらいです。あまりダラダラやりたくないのです、締め切りに迫られたことがあります。

Q 5 好きな作家さんはいますか？

A 東野圭吾さんや宮部みゆきさんなどです。

Q 6 小説の内容はどのような時に思いつくのですか？

A テレビを見ている時やぼーっとしている時に思いつきます。とても良いなと思った時には携帯に書きとめます。

Q 7 作家の大変なところは何ですか？

A 期限内に書き終えなければならないうことや、部屋にこもってずっと作業をしなければならぬことです。

Q 8 どんな時に仕事のやりがいを感じますか？

A 読者の方から葉書をもらったり、増刷がかかったりする時です。

Q 9 本を書く時のポイントはありますか？

A 基本的に若い人向けなので、若い人が何に関心に向けているかや、旬を取り入れることを意識しています。

Q 10 初めて書いた小説は何ですか？

A 十九歳の時に、自分で働いた二百万円で自費出版をしました。(注・『リアル鬼ごっこ』文芸社)

Q 11 作家さんとの交流はありますか？

A 交流はありません。高校の友人とよく遊びます。登場人物の名前をその友人の名前にさせてもらったりしています。

Q 12 高校時代はどう過ごされていましたか？

A バイトばかりしていて、小遣いも自分で稼いでいました。あと、クラスでは学級委員をやったりしていました。

Q 13 成高生に一言メッセージをお願いします。

A なんとなく無駄に生きるのではなく、やりたい事を見つけて生きてほしいです。その方が何かしら身になると思うし、もし本当にやりたい事ができなくても、他の関連した道に進めると思うので、諦めないで下さい。

【感想】

◆今回、作家訪問は、予定では30分だったのですが、終わったら一時間も経っていて、それでも30分もなかったような感覚でした。そのくらいお話が上手で面白く、楽しむことが出来ました。また私が思ったのは、悪い意味ではなく普通だということでした。想像ではもっと堅苦しい人か、ぶっ飛んだ思考の持ち主だと思っていました。が、た

だお話が上手なだけで、一般の人となら変わっていませんでした。

また、私の想像と違うような作家さんの一面が質問によって見られました。一番驚いたのは、締め切りがギリギリにならないということでした。漫画やテレビの中の作家さんは比較的締め切りギリギリまでやっているイメージでした。それから、書くのにももつとかわると勝手ながら思っており、イメージと正反対でした。なので、作家さんは十人十色ということを改めて実感させられました。作家になって得たものや、気分転換の方法など、意外な答えが返ってきたりして、同じ人間なんだな、とか、プライベートも知ることができて、とても良い経験になりました。そして、成高生への一言では、心に言葉がストンと落ちたような気がして、頑張ろうと思うことができました。一生忘れないような思い出となりました。本当にありがとうございました。

(1年K)

◆私は初めて作家さんに会い、その作家さんが山田悠介さんという人気作家で、しかも、私もよく読んでいた作家さんだったので、会うことができ、とても良かったです。高校生の私たちに対し、とても優しく、フレンドリーに話を振って下さいました。作家さんとはもっと気難しい人ばかりなのかと想像をしていたので、正直驚きました。また、(本にする)話の内容が尽きないと言っていたことにも驚きました。とても



想像力が豊かな方で、でも、一般の人と変わらないと分かり、作家さんに対してのイメージが変わりました。

(1年S)

◆今回の作家訪問では作家の先生へのインタビュ、出版社への訪問(注・インタビュの場所が文芸社本社ビルの会議室だったこと)など、初めてのことが多く、とても新鮮でした。聞いてみたいことを直接自分の言葉で聞けるのが、緊張もありつつ、楽しかったです。作家さんの仕事面やプライベートでどのようなことをするのかなど、数十分という短い時間の中で濃い内容を聞くことができたと思います。

逆に、先生が私たちのことも聞いてくれて、とても和気あいあいとした雰囲気だったことも強く印象に残っています。「作家さんへのインタビュ」という一生に一度あるかないかの体験が、山田悠介先生へのインタビュで本当に良かったと思います。(1年M)

◆今回作家さん訪問を経験できてよかったなと思いました。何回も集まったり、質問を考え、準備するなど大変なことが多々ありましたが、無事終えられてよかったと思いました。

当日、20分から30分ほどお話を伺う予定だったのが、山田さんがもつと話していいよ、と言って下さり、約一時間お話しできて嬉しかったです。最初

はどんな人なのかな、とか、色々不安なことがありましたが、実際に会ってみると、とても気さくな方で話しやすくて安心しました。山田先生は私たちに将来の夢ややりたい事などを聞いて下さったり、山田さんの高校生時代の話をして下さったり、作品以外の事も話して下さい、とても楽しい時間になりました。山田さんがおっしゃっていた

(1年T)

◆小説家という少し堅いイメージを持つていたのですが、いざ会ってみると意外と面白い人で驚きました。町田にも縁があったようで、町田駅近くの「親父ラーメン」にも行っていたそうです。自分も行ったことがあるのですが、今度と一緒に・・・と誘いたかったのですが、流石に緊張してそんなこと言えませんでした。

高校時代の山田先生は、僕たちとは全く別の生活をしていて、さらに驚きました。高校生からあんなに自立していたのかと思うと尊敬してしまいます。山田先生は僕たちに「やりたい事をひたすら頑張れ」とおっしゃっていました。山田先生も好きなことをやってあそこまで有名になられたので、僕も見習って夢を追い続けたいと思います。

山田先生とお話しできて大変光栄でした。ありがとうございました！

(2年H)

◆今回、山田先生にお会いすることができて、とても嬉しかったです。短い時間の中で、私たちが質問したこと以外にもたくさんのお話をしてくださるためになりました。このような貴重な経験はなかなかできないと思うので、絶対に忘れないようにしたいです。山田さんは思っていたよりもフレンドリーな方で、積極的に話を振ってくださったので、司会の進行をスムーズに行うことができました。(2年K)

◆僕は山田悠介さんにお会いして、自分の中の作家という概念が覆されました。内容としては、
・ホラー小説は当時のブームだったのでホラー作家になった。
・書き始めたらず仕上げるまで続け、締め切りギリギリで書き終えることはない。

というものでした。これらを聞いて、誠実で責任感のある方だと思いました。最後に、山田悠介さんはとても優しい近所のお兄さんという感じでした。面白く、メリハリがはつきりとしていて、何よりもとても正直な方でした。(2年R)

◆山田さんにお会いすることができてとても嬉しかったです。様々なお話を聞くことができてよい経験になりました。本を書くお仕事の方と話す経験もそうないと思うので、自分の中で何かに変えていければと思います。また、私は山田さんの書かれた本でまだ読んでいないものが多数あるので、これから読んでいきたいと思っています。今回のような訪問を今後も続けていけたらいいと思います。(2年S)

訪問日程 平成28年12月15日(木)

午後四時～四時五十分

訪問場所 文芸社本社ビル(新宿)

メンバー 2年4名 1年4名

計8名

引率 佐藤恭子(国語科主任教諭)

池田祥子(司書)

東川篤哉先生

Q 1 トリックのネタを思いつくのはどんな時が多いですか？

A 読書中やテレビを見ている時、散歩している時など、日常生活でアンテナに引っかけってきます。締め切りが近いと喫茶店にいる時です。

Q 2 好きな本格ミステリ作品を教えてください。

A 島田荘司さん『斜め屋敷の犯罪』、有栖川有栖さん『月光ゲーム』『Yの悲劇』⁸⁸や綾辻行人さんの作品です。

子供の頃は、横溝正史さん『獄門島』や赤川次郎さんの作品が好きでした。

Q 3 先生の作品の沢山の登場人物の中で、特に気に入っている人物はいますか？

A デビュー作なので、烏賊川市（いかがわし）シリーズの私立探偵、鵜飼さんに思い入れが深いです。他には霧ヶ峰（注・鯉ヶ窪学園探偵部シリーズに出てくる副部長）や風祭警部（注・『謎解きはディナーのあとで』、男子高校生3人組（注・鯉ヶ窪学園探偵部）とか・・・。

Q 4 作中のトリックをご自身で実証してみることができますか？

A 実証できるものはします。ただ、実際にできるかよりも面白さを重視していて、できないからこそ面白いものもあると思っています。

Q 5 作品が実写化された時に、不満な点や予想外に良かった点がありましたか？

A 自分の作品はほとんど見ません。評判は気にしますが。不満な点も特になく、好きにやってもらっていると思います。見た中では、影山（注・『謎解きは』の執事）役の櫻井翔さんや烏賊川市シリーズの剛力彩芽さんは良かったです。

Q 6 登場人物にモデルはいますか？

A 特にいません。イメージで書くので、例えば「毒舌家」だとか、ベタな人物設定に何かしら加えて書いたりします。

Q 7 高校生の頃はどんなことをしていましたか？

A 帰宅部で家に帰ったら本を読んでいた。高校の途中で転校したため、勉強の進度が違って苦労しましたが、国語が得意でした。

Q 8 ミステリ以外で書いてみたいジャンルはありますか？

A ミステリ仕立ての色々なジャンルです。『もう誘拐なんてしない』みたいなコメディも、また書きたいです。

Q 9 電子書籍についてどう思いますか？

A 自分では電子書籍を読むつもりはないです。作家としては、読んでもらえれば紙でも電子書籍でも良いけれど、書店に自分の本が並ぶのが楽しみだったりするので、紙の本がなくなると困ります。

Q 10 先生の本に「あとがき」があまりないのはなぜですか？

A これは初めて聞かれた質問ですね。デビュー作で「あとがき」を書かなかつたから。言い訳してしまいたいそうだから。全部に「あとがき」を書くのは大変だから・・・。（編集者氏のツツコミ

「じゃあ、次は書きますか?!」

Q 11 他の作家とトリックがかぶってしまったことはありますか？

A 知らない所がかぶっていることはあるかもしれませんが。似たようなトリックを書きたいと思って、全く同じにはしません。

Q 12 他の作家の推理ドラマや小説で結末やトリックを見破ったことはありますか？

A ドラマはあまり見ませんが、小説の場合は作者目線で読むので、直感でわかったりします。（見破れなくて）やられたと思うこともあります。

Q 13 作家になったことで身の周りに大きな変化はありましたか？

A 職業欄に「作家」と書けることです。ね。ガラッとは変わりましたが。『謎解きはディナーのあとで』がヒットしてから徐々に反響が大きくなり、本屋大賞を取った時は、さらにすごいことになると思って恐ろしかったです。

Q 14 書いている途中で推理のつじつまが合わなくなったことはありますか？

A しよっちゅうあります。書き直して伏線を張り替えたり、人物の設定を変えたり・・・。最初から書き直すこともありすが、つじつまが合わないことが逆にプラスに働いたこともあります。

Q 15 書き直したい作品はありますか？

A 納得できない作品はありますが、それでも面白いという読者もいるので、出版した以上は書き直したいとは思いません。

Q 16 表紙のイラストにこだわりはありますか？

A 特にないです。でも、表紙も評判に関わるので編集者と相談します。写真はともかく、イラストを完全に人に任せるのは怖いです。

Q 17 成高生に一言お願いします。

A 第一にミステリを読んでもらいたいです。自分は大学生になると忙しくて本を読まなくなりました。高校生の時は時間がなかったけれど、本を読ん

でいました。高校生が一番本を読める時だと思います。もちろん、大学生になってからもミステリを読んではい

【感想】

◆最初は、東川先生が有名な作家さんなのでインタビュの依頼も通らないだろうと思っていました。だから、許可が出た時は本当に驚いたのと、この機に読み直そうと思いました。いざ先生の著書が並んだところを見てみると、読んだことのない本が数冊あったのと、友だちとオススメの本の意見交換ができたことでも楽しかったです。

◆行きがけに道に迷い、わりと時間ギリギリで着いてしまった。(注・準備班・後発班の2班に分かれて行動し、後発班が道に迷うというアクシデントがあった。)

遅ればせながら準備を手伝っている

と、突然ドアがカチャッと開き、編集者さんを一人連れて東川先生が入って来た。あまりに突然の登場に私は面食らった。こちらはといえば、ゆっくり席につく余裕もなく、突っ立ったまま。あまつさえ、一人トイレに行っていて不在といった有様だった。初っ端からやらかした感じを感じつつ、とりあえず全員席に着き、早速インタビュを開始。

想像していたのは天才肌で一般人とは違ったとつきにくい人。が、東川先生はそんなふうではなく、ベタな言い方だが「優しい人」だった。発言もとても分かりやすく、説得力があった。たとえば、誰かが「作中の人物にモデルはいいますか？」と質問したら、先生は「いない」と答えた後に、「だって、あんな人たちがまわりにいたら、我々は大変じゃないですか。」と笑いながら付け足した。私はなるほどと思い、この説得力こそプロの作家のなせる技か

◆作家さんに初めて会ったのでとても緊張した。『謎解きはデイナーのあとで』でもとても興味を持った作家さんでもあったので、会えたのが本当に夢のようだった。質問のとき緊張して

まともに先生の顔を見ることができなかったけれど、先生は私の顔を見て質問に答えてくれてすごく嬉しかった。先生は気さくでいろんなことを教えてくれたので面白かった。ミステリ以外だったらユーモア小説を書きたいとおっしゃっていたので、もし書かれたら読みたいです。自分の本にサインしてもらえたときは本当に嬉しかったけれど、名前もわざわざ書いていただけ

◆お会いしてみるととても優しい方でした。しゃべり方も心にグッとくるようなすごく素敵なお人でした。

一番印象に残ったことは、トリックの実証はしているのかという質問の答えです。「してないよ。それに本にして出してしまえばこっちのものだから、あとは読者次第だね。どういうトリックなのか悩んでくれたら考えた甲斐があるよ」とおっしゃっていました。こんなふうに、東川篤哉さんはユーモアがあり、とても面白い方でした。楽しい時間を過ごさせていただきました。

(2年M)

◆ずっと読んでいた本の作者である東川先生に会えるということでも緊張しましたが、先生は一つ一つの質問に丁寧に答えて下さり、だんだん緊張が和らいできました。先生の好きな本格ミステリ作品の中に私が好きな作品もあり、とても嬉しかったです。ほかの作品も読んでみようと思います。先生の作品を読んで疑問に思っていたことも直接尋ねることができました。サインして頂いた本は一生の宝物です。

(2年N)

◆お会いしてみるととても優しい方でした。しゃべり方も心にグッとくるようなすごく素敵なお人でした。

一番印象に残ったことは、トリックの実証はしているのかという質問の答えです。「してないよ。それに本にして出してしまえばこっちのものだから、あとは読者次第だね。どういうトリックなのか悩んでくれたら考えた甲斐があるよ」とおっしゃっていました。こんなふうに、東川篤哉さんはユーモアがあり、とても面白い方でした。楽しい時間を過ごさせていただきました。

(2年R)

訪問日程 平成 28 年 12 月 22 日 (木)

午後二時～四時

訪問場所 国分寺市立本多公民館

会議室 1

メンバー 2 年 5 名

引率 佐藤恭子 池田祥子

